

企業を育て 地域を伸ばす 商工会議所

5・6 はんえい

発行・編集の京都商工会議所 中小企業経営相談センター / 〒604-8106 京都市中京区島丸御池南東角アーパネックス御池ビル西館3階 TEL075-212-6460



本所は、四月二十四日に平成十八年度地域活性化推進委員委嘱総会を開き、村田会頭から各業界団体や商店街の役員など二百二十五人に同委員を委嘱した。

平成18年度地域活性化推進委員委嘱総会 業界・地域振興を担う 225人に委嘱

本所は、四月二十四日に平成十八年度地域活性化推進委員委嘱総会を開き、村田会頭から各業界団体や商店街の役員など二百二十五人に同委員を委嘱した。

地域活性化推進委員は、京都経済を支える多くの小規模・中小企業と本所をつなぐパイプ役として、業界振興や地域の活性化を担う各業界組合・商店街の役員などに毎年委嘱しているもの。豊富な経験や知識を生かして、本所が実施している経営改善普及事業や地域活性化に向けた諸事業の普及に協力するほか、小規模・中小企業者の経営上の悩みや問題の相談などに応じ、本所中小企業経営相談センターへのつなぎ役を果たしている。また、教育機関や学識経験者、文化・スポーツなどの関係者三十七人に特別協力委員として委嘱し、幅広く協力・連携のネットワークを築き、京都経済の発展を目指していくこととしている。

青年部・通商委員総会
ビジネスの発展と
地域社会への貢献を目指す

本所青年部（加藤弘幸会長）は四月二十八日、市内のホテルで通商委員総会を開催し、平成十八年度事業計画などを決めた。

平成十八年度の活動テーマは「YEG（青年部）ビジネスモデルの創生」。青年部会員は自らのビジネスの成長発展を原点としつつ、活動を通じて相互交流や自己研鑽に努め、同時に地域社会の一員としての役割を積極的に果たすことを目指すというもの。三百二十六名の会員は、ビジネススマーケティング部会やグッドリレーション部会など五つの部会に所属して、それぞれの部会テーマに沿って活動

第二回京都協議会を開催

平成十七年度から本格的に取り組みを開始した「企業等OB人材マッチング事業」の第二回京都協議会が三月二十四日に開催され、平成十七年度実績報告と平成十八年度活動方針について意見交換を行った。

昨年度は上半期に「企業等OB人材登録」を、下半期に「マッチング創出」を中心に活動し、京都府内で百名のOB人材登録と二十件のマッチング実績を残した。なかでも、「⑩ヘルステック」(下

五月一日から 新会社法が施行されました

五月一日から「新会社法」が施行され、「株式会社制度と有限会社制度の統合」「株式会社と有限会社の柔軟化」など、実態に合った対応ができるようになり、また、同法では新会社法の概要を解説した冊子「よくわかる中小企業のための新会社法33問3答」を作成しています。ご希望の方は本所中小企業経営相談センター（☎075-212-6467）まで、

を展開することとしている。

加藤会長は「設立以来、青年部の活動は高い評価を得ている。会員一人ひとりの志によって、京都の新しい時代を創造していきたい」と抱負を語った。また来賓として渡邊副会頭も出席し、若手経営者らの活動を激励した。

京区」のマッチング事例は京都創出の成功モデルとして日本商工会議所から全国に紹介され、協議会としても非常に高い評価を得ている。

本年度の事業計画としては、京都府内全体での事業普及を目指すこととし、綾部商工会議所に京都北部地域活動拠点を設け、新たにコーディネーターを一名配置することを計画。これにより京都府内が一体となった取り組み体制が形成され、中小企業支援事業としてさらに活発な事業展開が可能となる。



「虫の眼」と「鳥の眼」と経営計画と

—経営革新計画承認取得のススメ—

計画に基づいた経営活動の実践が強く求められていますが、なかなか定着しないというのが中小企業の実態ではないでしょうか。

このような状況を改善しようと設けられているのが中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認制度です。これは、経営の革新をめざした新たな取り組みを「計画」にまとめ上げ、府知事に提出し、承認を求めます。承認を得た企業には各種の支援メニューが用意されているというのですが、この承認レベルの「計画」を作成する秘訣が、ずばり、虫の眼と鳥の眼を持つことなのです。

計画を策定するには、まず、現状の分析を正しく行うことが必要です。競争相手をしっかりと想定した上で経営環境と保有資源について虫の眼でもって細部にまで検討を加える必要があります。ここで特に注意を要することは、想定する競争相手が異なれば、自社の「強み」が「弱み」に転じてしまう（逆の場合も）場合があることです。

現状分析が正しく行えれば、次は、戦略の策定です。まずは、戦術レベルのことにはあまり気をとらわれず、空の上から下界を見下ろす鳥になったつもりで大局的に、自社事業をどう定義づけ、業界の一員としてどういうポジションに置きたいかから検討していくことをお勧めします。

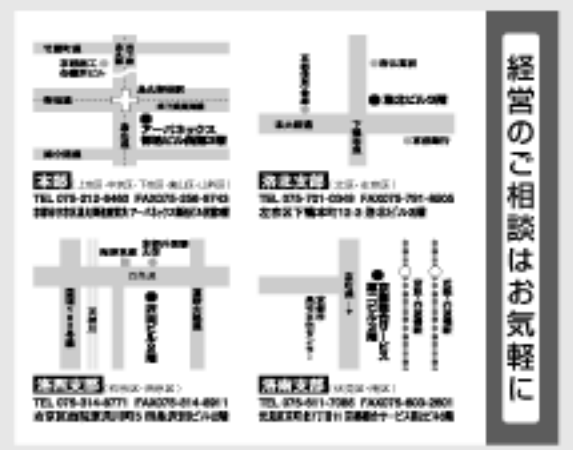
これを起点に策定される戦略を具体的に記述したものが、「計画」ということになり、そこに、新規性と事業性、合理性と納得性が認められれば、前述の経営革新計画の承認獲得というご褒美が与えられることになります。



中小企業経営相談センターでは中小企業の皆様の経営革新計画の申請を支援しています。お気軽にご相談ください。☎ 075-212-6470

マル経 資金融資

小規模事業者のための経営改善資金融資制度



無担保・無保証・低金利（手数料無料）

- ### 融資の条件
- 融資限度額550万円（設備・運転を併せた限度額）
 - 返済は元金均等返済返済。（返済方式で、利息は毎月減額）
 - 信用保証協会による保証も不要。
 - 融資限度額の範囲内で、マル経の借り換えの利用もOK。
 - 返済期間は、設備：7年以内 運転：5年以内（いずれも6カ月以内の据置も可）
 - 利率＝年2.15%（平成18年5月10日現在）
- ※ご相談の内容によっては、ご希望に添えない場合があります。

- ### 利用の対象
- 従業員数が20人以下（商業・サービス業では5人以下）の事業者の方。
 - ただし、法人役員、家族従業員、パートは除く。
 - 従前から商工会議所の経営指導を受けている方。
 - 所得税・法人税・事業税・住民税を完納している方。
 - 京都市内で、最近1年以上営業している方。

経済環境変化経営改善貸付 へんけい貸付

金利・返済期間等はマル経と同様です。マル経融資と併せて1,000万円までご利用いただけます。ただし、貸付条件については一部制約があります。詳しくは相談窓口でお尋ねください。（取扱期間は平成19年3月31日まで）

融資限度額 450万円

ご相談はすべて 無料です
京都商工会議所 中小企業経営相談センター
※事業所の異なる行政区の各支所へご相談ください。（上記の地図参照）

NEWS FLASH FROM BRANCHES



京都府美容衛生生活衛生同業組合・日本髪結髪保存会
日本髪結の技術伝承に向けて

京都の風景に必ず登場する舞妓さん。伝統を守るためにはさまざまな技術の伝承が欠かせないが、舞妓さんもその代表。着物の女性には、やはり日本古来の髪型が良く似合う。

日本髪結の結髪技術を絶やさないために、同組合では平成十二年六月から継続研修事業として日本髪結髪保存会を設立し、その技術伝承に努めている。毎月第一水曜日の晩に勉強会を開催、平成十八年度も既にスタートしている。現在の課題は、布天神（江戸時代後期）の結髪技術である。

本所では、この技術伝承研修を活性化推進の継続研修として支援を行っている。

同組合では、組合員が技術習得に切磋琢磨を重ねることが励みになるようにと技術競技会を府内大会、全国大会として毎年開催している。その競技範囲は美容師の基本技術であるヘアークット、ヘアードレスはもちろん、和服（留袖・振袖）着付け、花嫁化粧着付けや洋装ブライダル着付け、ネイルアート技術まであり、組合員の技術習得意欲の向上に繋がっている。

事前に連絡をすれば伝統技術研修や大会の様子を見学することも可能、詳細は組合へ（☎075・811・0211）。

山科地域の商業者・事業者・住民等が参画して昨年九月に発足。以来、ワーキングチーム（織田直文座長）を中心に商店会等の訪問調査や消費者懇談会を含め、調査検討作業を重ねてきた。

中間報告は、山科地域の商業者と消費者は「相思相愛」のような関係とし、この構造を維持しながらさらなる集客拡大と顧客満足の向上を課題とする。そして山科区内の「山科駅前周辺ゾーン」「幹線沿道集積ゾーン」「住宅地内商業施設サービズゾーン」という地区特性に応じた振興方針を提案している。

また同委員会では、調査検討と併せ実験的事業の「山科商いウォーキングラリー」を三月二十五日に実施。山科駅前から地域内の商店会などを巡るラリーや、「煮詰会・懇談会」に約百六十名の市民が参加した。

同委員会では、調査検討作業や実験的事業をさらに進め、基本理念や振興方針を実現するプロジェクトを含めた同ビジョンの策定に向け、現在、「中間報告」についての意見を募集している。

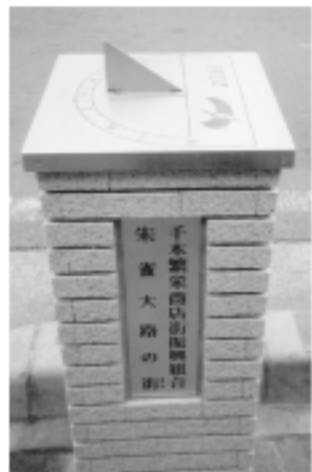
お問合せ先は、同委員会事務局（本所中小企業経営相談センター）☎075・212・6468

**中小企業の再生を
おまかせください**

相談無料・秘密厳守

公認会計士や税理士などの専門家が、中小企業の企業再生に関する相談に無料で応じます。

お問合せ
京都府中小企業再生支援協議会
TEL 075-212-7937



上京区の千本繁栄商店街振興組合（古谷喜之理理事長）は、本年三月二十七日の最後の総会で同組合の解散を正式決定し、今後は新しい任意団体「朱雀大路の街」が活動することになった。

同組合は、昭和四十年に結成された千本通（丸太町通→上長者町通）の南北約五百メートルの商店街で、かつては多くの買い物客でにぎわったが、和装産業の停滞や映画館の閉館などで人通りが減少し、時代の波におかれた形で解散となった。

この四十年の歴史を形に残そうと日時計を新たに作り、千本通沿いの四カ所に設置した。日時計の支柱には、両団体名が刻まれ、今までの歴史と新たな歩みを伝えている。

本所
歴史と未来あらず日時計

千本繁栄商店街振興組合

地域フラッシュ

NEWS FLASH FROM BRANCHES

洛南支部

「安全な屋根・安心な瓦」 瓦・防災フェア開催



京都府瓦工事協同組合（松田等理事長）は、創立五十周年を記念して、四月十五日に京都市役所前広場で「瓦・防災フェア」を開催した。自然の素材から造られる瓦は千四百年の歴史を有し、日本の気候風土や建物、住まう人の健康にも適した屋根材で、安全な屋根・安心な瓦をテーマに、屋根に関する相談や京都市消防局の最新起震車「もくらっ太」による地震体験、瓦工事組合の訓練生による地震に強い瓦葺きの実演、防災瓦等の屋根材及び部材展示などが行われた。

また、子どもたちに防災の大切さを知ってもらえるよう、中立売警察署による人形劇や紫野高校生による防災劇、実物の二分の一の家を建てたり、粘土で家紋や動物を作るなど、大人も子どもも楽しみながら瓦の耐震性を確認し防災意識を高めた。そして豪華な賞品が用意された抽選会もおこなわれ、終日多くの参加者で賑わった。

洛西支部

地域と商店街を結ぶ 「あじさいまつり」

大映通り商店街振興組合
 右京区太秦にある大映通り商店街（森春生理理事長）は、六月、各店頭が赤や白、紫、青、ピンクなど色とりどりの紫陽花の花で彩られる。この紫陽花は、

地元の鎌ヶ岡中学校の二年生が入学時より一年間手塩にかけて育て上げたもので、同中学では「あじさいを通して自然に目を向け優しい心を育てる、そして地域のまちづくりに参加して地域の環境づくりを考える」ことを目的として「あじさいプロジェクト」を現在の三年生の入学時より立ち上げた。校長先生からその話を聞いた大映通り商店街は、生徒たちの作った大小さまざまな形の紫陽花の展示場として各店舗前を提供。初回の昨年は「あじさい祭」が開催され、同中学の吹奏楽部によるマーチングパレードの演奏や、期間限定の中学生による紫陽花の花屋がオープンするなどたいへん賑い、「店頭が紫陽花で華やかなりなまつり」と商店主にも好評だった。

本年は六月三日（土）から一カ月間開催する予定で、昨年、二百鉢であった紫陽花は、倍の四百鉢が用意され、一層華やかに大映通り商店街を彩ることになっている。商店街の活性化に協力してくれた同中学の全生徒には、大映通り商店街からお礼の気持ちを込めてキネマスタンプ二十五枚を貼った台紙が進呈され、同中学からは各生徒にクーポンが五枚配られ、クーポンを提示して買い物をするとき支払った金額の三倍のキネマスタンプが貰える特典がついてくる。生徒ひとりひとりの手作りの紫陽花はどれも個性的で道行く人を楽しませてくれる。雨だれに光る紫陽花の花、太陽の恵みを浴びた紫陽花の花。地域と商店街が手を繋いだまちづくりは、梅雨空を吹き飛ばす。



本所

365日晴れの街 アーケードをリニューアル



京都三条会商店街（上田照雄理事長）では、一月から行っていたアーケードの改修工事が完了し、このほどお披露目セレモニーが開催された。完成したアーケードは「ほんなりとした粋な街」をコンセプトに、

雨の日でも明るく、楽しく買い物ができるようデザインされている。また通行者の安心・安全を強化するため防犯カメラ四十台も設置された。

四月十五日に開催された式典では、京都府警察音楽隊・カラーガード隊によるパレードや鏡割りが行われ来賓や関係者が出席して完成を祝った。また、記念事業の一環として発売された京都三条会ブランドのオリジナル日本酒「おこしやすSanjio」も先着二百名に配られ、訪れた買い物客らを喜ばせた。

上田理事長は「京都三条会が地域コミュニティの核となって、住民に親しまれ愛される商店街となるよう頑張りたい」と抱負を語っている。

「おこしやすSanjio」は三宅酒造の協力により商品化され、京都三条会商店街の酒類販売を行う各店舗で購入できる（三百ミリリットル入り・一本四百五十円）。



古くから「西陣の台所」として賑わってきた北野商店街振興組合。今も、多くの買い物客が目当ての品物を求めて行き交う。同商店街では、今から五年前、佛教大学社会学部が実施した事業所調査をきっかけに、積極的な「商学」の交流を進めてきた。毎年、恒例となっている「北野夏まつり」では、学生らが企画するイベント（早食い大会やジャズ演奏など）を披露したり、ユニークな屋台（こはんパー、アイスのでんぶらなど）を出店しているほか、各学部・学科の協力を得ながら地域の魅力を掘り起こすシンポジウムを開催。

また、学生たちを商店街に受け入れ、実際にビジネスの現場を経験してもらう「インターンシップ」も好評だ。これまでに、ブティックや不動産店などで研修が行われ、意欲的な学生が接客や販売のノウハウ



「北野夏まつり」の様子



学生と商店街関係者による企画会議

が持っている知識やノウハウを吸収したいと考えた。これまでの商学連携の取り組みの集大成といえるのが、昨年十月一日、佛教大学のコミュニティ・キャンパスとしてオープンした「ゆいまーる」。相互扶助の精神、結びつき、情報発信の場にして「地域の願い・学び・情報発信の場にして」という願いの表れ、「北野新聞」を発行、カフェ・ビジネスの開設を目指す学生たち、ニューなどを勉強する起業家点となっているほか、佛教大学のクラブやサークルの成果発表の場として利用されている。「今後は、商店街の運営そのものにも大学の知恵を生かしたい」。学生の力を取り込むことで、地域を巻き込んだ大きな「うねり」が生じようとしている。

を学んだ。「最初は、いらっしやいませ。もうまく言えなかったが、次第に責任感が芽生えてきたようだ」と宮脇登理理事長は振り返る。地域に密着した商店街ならではの、きめ細やかな連携が注目を集めている。「すべてが初めての挑戦。大学

北野商店街 meets 佛教大学

斬新な発想を受け入れて「旋風」を巻き起こす

北野商店街振興組合
京都市上京区一乗通七本松西入車町
品川フイドビル3F
☎075-464-2830
URL <http://kyokosha.com/>



「秋の行燈灯し」の準備中。学生たちの活躍が、地域の活性化に貢献している。

「すべてが初めての挑戦。大学を学んだ。最初は、いらっしやいませ。もうまく言えなかったが、次第に責任感が芽生えてきたようだ」と宮脇登理理事長は振り返る。地域に密着した商店街ならではの、きめ細やかな連携が注目を集めている。「すべてが初めての挑戦。大学

嵯峨商店街 meets 京都嵯峨芸術大学

夜間観光の賑わいを創出

出町商店街 meets 立命館大学

次世代の商店街ファンの開拓

また、商店街有志と地域住民等で組織する「でまら倶楽部」も学生たちの参加によりさまざまな活動を行っている。次世代の商店街ファンを増やすために、これからの商学連携の挑戦は続いていく。

そのほか、産業界と連携して「産学連携」の学生らのアイデアを取り入れ、地域にもっと親しんでもらうためのミニツアーを企画した。出町地域に点在する織田信長や安土桃山期の名匠・曲直瀬道三ゆかりの地を巡るコースなど、「これまで商店街に足を運ばなかった若い人たちが参加してくれた」と佐々木良事務理事。

嵯峨商店街では、京都府立大学や京都嵯峨芸術大学から専門家を連立させ、まちづくりの方向性や観光ニーズの分析などさまざまなシンポジウムやセミナーを開催している。「せっかくの観光地なのに、日没とともに閉まる商店が多いという意見が寄せられた」と話すのは嵯峨商店街の加藤一樹会長。嵯峨・嵐山の「夜」を取り戻そう……。こうした気概のもと、昨年十一月一日〜三十日の一か月間、地域の商店街、住民が参加して繰り広げられたのが「秋の行燈灯し」。

竹を割ってデザインした高さ二メートルの行燈を、日没から午後八時頃まで、渡月橋や天龍寺、各店舗の前に二百基ほど並べ立てた。行燈のデザインや制作は、京都嵯峨芸術大学（柴田博教授）のゼミ生らが協力。学生ならではのアイデアを生かした、温かみのある光のオブジェが話題だった。地域が一体感が生まれ、営業時間が延長する商店が増えたり、観光客の滞在時間が延びるなど成果が見られたという。「観光地の復権に向けた足掛かりとなった」と自信をのぞかせる。

出町商店街振興組合では、地元京極地域の歴史や文化を再発見する「京極歴史探偵団」をはじめ、さまざまなイベントや文化祭などを企画、開催して、商店街の活性化に結びつけてきた。四年前から、立命館大学社会学部（谷口知弘助教授）のゼミ生と連携して、小学生を対象にしたウォークラリーを実施。子どもたちが見つけてきた名所や史跡を縦横五メートルの巨大な地域地図「ガリバーマップ」に書き写し、人間をコマにした双六を遊ぶなど、遊び心をくすぐるユニークな発想が好評だったという。

「こうした成果を商店街の空き店舗の用に生かせないかと考えた」。龍谷大学の

今、商店街が熱い！ 大学が培ってきた知恵と、商店街が持っている経験や地域性を融合して、新たな賑わいを生み出そうという取り組みが盛んになっている。なかでも、「大学の街」と呼ばれる京都には、ユニークな発想や能力を持った学生がたくさん埋もれている。まさに、産学連携の取り組みを進めやすい風土にあるといえるだろう。今回は、大学や専門学校と連携してさまざまな活性化の取り組みを進める先陣事例を紹介。その具体的な内容や意義、効果を掘り起こしながら、これからの商店街のあり方を考えたい。



商店街は学びのキャンパス

～大学との連携により活性化する商店街～

レトロ感漂う商店街を歩けば、路地裏から今にも最新の志士たちが顔を出しそうな雰囲気にあふれている。龍馬通り商店街振興組合が龍谷大学経済学部（伊達浩志助教授）との連携を始めたのは、今から五年ほど前のこと。学生らが中心となって来街者に対する聞き取り調査が行われたという。「このように商店街の魅力をアピールしていくか、非常に参考になった」と振り返る南條良夫前理事長。



「龍馬祭」での龍谷大生による屋台販売



小箱ショップ「大まら」の店内

こうした取り組みがきっかけとなって、学生らが商店街のイベントや行事に積極的に参加するようになった。毎年十一月月中旬に行われる「龍馬祭」では、五十名以上の学生が運営に加わり、福菓子の屋台販売などをやっている。龍馬祭はこの時季で最も大きなイベントとして知られ、同志社大学

学生らが経営する小箱ショップ「大まら」が商店街にオープンしたのは、二〇〇三年秋のことだった。店内に設けられた販売を行うというもの。途中で投げ出さないうように、しっかりとビジネスプランを考えてもらって、と南條前理事長。現在では、地域内外から百名以上の「プチ作家」が作品を持ち込むなど、口コミで人気広がっている。今年一月から経営に関わっているという岡田樹子さん（経済学部四回生）は、「商店街は地域コミュニティの場。ビジネスだけでなく、たくさんの方の知識や経験を学ぶことができる」と笑顔を見せる。学生のバイタリティを活用して、商店街に人を呼び寄せる取り組みは、学ぶべき点が多いといえるだろう。

「人力俵友の会」などユニークな同好会も参加し、「龍馬」とお値を乗せて伏見の町を練り歩くほか、地元の京都すばる高校の吹奏楽クラブが演奏で花を添える。まさに、商学連携で成功した代表的な活性化事例だろう。

龍馬通り商店街 meets 龍谷大学

学生発ビジネスプランを商店街が支援

龍馬通り商店街振興組合
京都市伏見区南浜町2885
☎075-611-1474
URL <http://www.ryugaku-dori.com/>



ごはんを噛んで、頭に刺激・歯ぐきに刺激・虫歯予防!

お米のたけうち/米穀販売店

良質のコシヒカリやひとめぼれをはじめ、丹波の黒豆、黒豆茶、無添加梅干など、安全・安心にこだわった商品を取り扱う。店長の竹内康宏さんは、府内に8名しかいないという五つ星の「お米マイスター」。日本米穀小売商業組合連合会が認定する、お米についてあらゆる知識・技能に精通したプロフェッショナルだ。最近、パン食の人が増えてきたが、「一人でも多くの方に、お米の良さを見直してもらいたい」と竹内さん。同店では、消費者のライフスタイルや嗜好に耳を傾けながら、最もおいしいと思ってもらえるお米を提供する

「対話型」販売を心がけている。「炊き立てのときおいしいお米、冷めておいしいお米、いろいろあるんですよ」と笑顔を見せる。若い人たちが試食感覚で買い求めることができる、お米の量り売りなどにも取り組んでおり、新たな顧客の獲得につながっているようだ。

そのほか、健康をコンセプトにしたおもしろいアイテムも豊富に揃える。和歌山県北山村特産のじゃばらや柿酢、米発

酵エキスまたはライスパワーエキスから作った化粧品やシャンプー、サプリメントなど、よそではお目にかかれないものも多い。「お客さんのさまざまなニーズに応えたい」。「ご飯」の普及と促進を目指して、竹内さんの挑戦はまだ続く。



酵エキスまたはライスパワーエキスから作った化粧品やシャンプー、サプリメントなど、よそではお目にかかれないものも多い。「お客さんのさまざまなニーズに応えたい」。「ご飯」の普及と促進を目指して、竹内さんの挑戦はまだ続く。



お米のたけうち

お米のマイスターの店主が厳選した安全・安心な米穀類を販売する。古代米や発芽米などこだわりのアイテムも豊富。食の相談に幅広く答えてくれる。

DATA
京都市中京区西ノ京藤ノ木町4
TEL 075-821-0486
URL <http://www.gohan-genki.jp/>

山科三条商店会 meets 京都橋大学 学生パワーで面白イベントを企画

山科三条商店会
京都市山科区御陵大津畑町32
TEL 075-581-0130
<http://www.oona.jp/~sakuro/>
sakuro@oona.jp

山科三条商店会は古い歴史と伝統のある商店街だが、周辺地域の再開発などの影響によって空洞化が目立ち、「各店舗がバラバラの状態だった」という。今から四年前、商店街の賑わいを取り戻そうと、龍野英次会長ら商店街の若手役員を中心に京都府立文化政策学部(織田直文教授)と商学連携に取り組んだ。

「とにかく何かに挑戦しようという気持ちだった。寺院の駐車場を借りきって人気アニメを上映した」「三条街道わくわくナイト」は、家族連れなど八百人が訪れるほどの人気だった。また、昨年十一月に開催された「三条街道わくわくフェスティバル」では、ゴミ箱にペットボトルを投げ入れる「ゴミ箱わくわくポイ」、片足でバランス感覚を競う「カカシで我慢大会」など、学生たちのユニークな意見を取り入れたイベントを企画。立命館大学や京都精華大学のサークル(ちんどん屋、足つばマッサージなど)が参加し、学生パワーで会場は大いに盛り上がった。商店街の認知度が高まり、新入会者が増え、集客力も向上した。山科三条商店会の今後の試みから目が離せそうにない。



「地域の魅力を発信できるイベント開催など、学生のアイデアを活用したい」と、将来の取り組みに意欲を見せる。

神宮道商店街 meets 京都芸術デザイン専門学校 マップ作成で地域の魅力発見

神宮道商店街組合
京都市左京区岡田門内町91-89
TEL 075-771-6401
http://www.hakuro-doh.com/index_004.htm

神宮道商店街は、昨年七月に発足した新しい商店街で、観光地が集積する平安神宮を中心とした岡田エリア玄関口に当たる。「商店街をもっと多くの人たちに知ってもらいたい」という思いから、京都芸術デザイン専門学校(平坂眞専任講師)の学生とのコラボレーションで、周辺の観光名所や紅葉の見所などを盛り込んだ「神宮道上がる下がるイラストマップ」を制作した。学生らが商店街を一新し取材して回ったほか、隠れた穴場スポットを発掘するなど、「地域の魅力発見につながった」と太田節子会長。主人公の女の子が人力車に乗ったり、動物園を訪ねたり、商店街で買い物したり……季節の風物詩を描いた愛らしいイラストが人気を集め、用意した一万部のマップはたちまち品切れになったという。

最近では、和雑貨のショップやカフェ、レストランなど若者向けの店が増え、商店街に賑わいが生まれつつある。「地域の魅力を発信できるイベント開催など、学生のアイデアを活用したい」と、将来の取り組みに意欲を見せる。

専門相談のご案内

小規模事業者の皆様のご経営上のご相談に、各専門家が適切なアドバイスをします。相談は無料、秘密は厳守致しますので、お気軽にご利用ください。

相談分野	時間	相談日	相談場所
法律	午後1時~午後4時 受付は午後3時30分まで	毎週(火)	本部
経営	午後1時~午後4時 受付は午後3時30分まで	毎週(水)	本部
店舗運営管理	(事前予約制)		洛南支部
不動産関係・資産運用	午後1時~午後5時 受付は午後4時45分まで	第3(木)	本部
税務	午後1時~午後5時 受付は午後4時45分まで	第2-4(木)	本部
		第1-3(月)	洛北支部
		第2-4(火)	洛西支部
第2-4(水)	洛南支部		
共済・遺言・退職金準備・保険見直し・資金関係	午後1時~午後4時30分 受付は午後3時30分まで	第2-3(金)	本部

お問合せ 京都商工会議所 中小企業経営相談センター
本部 TEL 075-212-6460 洛南支部 TEL 075-811-7085
洛北支部 TEL 075-701-0349 洛西支部 TEL 075-314-8771

◆法律

取引上のトラブル
子、奨学金回収、契約・登記、金銭貸借、不動産売買など、その他交通事故、相続、保証人等の法律問題。

◆経営

財務、労務、生産管理、マーケティング、情報化など。

◆店舗運営管理

外装(看板、ショーウィンドー)、配管計画、商品陳列、照明、色彩、POP各種表示、その他店舗の活性化や個店の活力アップのアドバイス。

◆不動産関係・資産運用

不動産の実際価値や法的評価を参考に、低金利期間の中で資産価値を高める運用方法など、関連する税制面を踏まえながらアドバイス。

◆税務

所得税(事業所得、譲渡所得など)、法人税、事業承継税、事業税、固定資産税、消費税、確定申告の仕方など。

◆共済・遺言・退職金準備・保険見直し・資金関係

平成24年3月31日に廃止される「遺族退職年金」の制度移行問題、退職金準備問題、共済並びに資金制度など。

その他の「大学と連携している商店街」の事例

商店街	大学	内容
大塚通り商店街	京都経済芸術大学	学生の感性を生かして、空き店舗を活用した「太陽ネネマ美術館」の外壁を制作。LEDロウ音響装置の設置などを通じて憩いの場を提供した。
京三条会商店街	平安女学院短期大学	空き店舗を活用した子育て支援事業。若い主婦が気軽に立ち寄れるスペースを提供した。
三桑小橋商店街	立命館大学	学生を対象に、ヒヤリング調査を実施。商店街活性化や地域づくりのヒントを得た。
御膳橋801商店街	京都産業大学	空き店舗を利用した雑貨ショップ「器(モノ)」は、商学連携の先駆けとして注目された。
大塚車商店街	京都工芸繊維大学など	平安時代の信託伝説「百鬼夜行」をテーマにしたさまざまなイベントを開催。手作りの衣装・メイクで妖気に扮した学生らが一歩進歩を体感した。

※事例は当センターが情報把握しているものです。掲載分以外にも事例となる取り組みが行われている商店街がありましたら、お教えいただければ幸いです。



地域社会再生に向けて膨らむ期待

近年、「産学(商学)連携」が社会的な潮流となり、さまざまな大学や研究機関がその取り組みを本格化させている。後継者不足の問題や空き店舗の増加に悩む商店街にとって、活性化のチャンスが到来したといえるだろう。

産学連携のメリットは、大学が培ってきた知識やノウハウを生かして、効果的な誘客の方法を考えたり、魅力的な商品を開発するなど、これまで思いつかなかったような「仕掛け」を創出できることだ。また、学生たちの刷新で柔軟な発想、バイタリティあふれる行動力は、「地域の人たちのやる気」を促す起爆剤になる(北野商店街振興組合)という。

産学連携のカタチも多様化しており、イベントなどへの参加をはじめ、ワークショップやシンポジウムの開催、最近ではコミュニティ・ビジネスを立ち上げようという積極的な学生も増えてきた。こうした大学の意欲をどのように受け入れ、地域社会の活性化へと結び付けていけるのか、今後の商店街の方向性を占う試金石となるだろう。